

研究発表

図書館広報手段と「Lib.PR：図書館広報実践支援サイト」の立ち上げについて —図書館のペンリ!を利用者に伝える—

企画広報研究分科会

東京家政大学図書館狭山図書館	秋山 朋子
専修大学図書館	奥原 由美子
日本女子大学西生田図書館	中澤 恵子
東洋学園大学流山キャンパス図書館	中村 園子
昭和女子大学図書館	前之園 香世子
青山学院大学万代記念図書館	山田 美佐子

1 企画広報研究分科会の概要と歩み

企画広報研究分科会は、パブリックサービス研究分科会から独立した1986年から数えると、今年でちょうど20年目となる。この20年間に、サービス向上に直結する成果を目指し、共同研究を行ってきた。研究成果としては、「図書館広報実践ハンドブック」、「しおり・ポスターの共同制作」、「パスファインダーバンク」などがある。

今期は、主に2つの活動を同時進行させてきた。一つは前期より引継いだ「パスファインダーバンク」の運用と拡充。もう一つは、「図書館広報実践ハンドブック」を発展させたサイト、「Lib.PR：図書館広報実践支援サイト」の企画と公開だ。

実際の活動は、月1回の例会、夏合宿、そしてYahoo!グループのメーリングリストとブリーフケースを使って、意見交換やパソコン上の作業などを行なった。

2 パスファインダーバンク

1) 「パスファインダーバンク」とは

「パスファインダーバンク」*1は、当研究分科会が前2期に渡って企画・開発、公開した共同利

用ツールのひとつである。

パスファインダーとは、ある特定のトピックに関して資料や情報を収集するための手順を簡便にまとめた「情報探索ツール」のことである。

各図書館で個別に作成しているところも多くあるが、テーマを選定して一から作成するのは、容易なことではない。そこで、「パスファインダーバンク」のサイトでは、各々の図書館が作成しているパスファインダーを収集し、各館の利用条件を踏まえた上で共同利用できるように提供している。

2) サイト機能とコンテンツの充実

今期は、この「パスファインダーバンク」をより多くの図書館で活用できるよう検討し、活動してきた。

① アクセスカウンターを設置

2004年12月18日にアクセスカウンターを設置し、利用状況を確認できるようにした。

② MLによるパスファインダー追加情報の提供

パスファインダーの到着情報を追加した際には、サイト上での到着案内に止めず、分科会メンバー以外の方々が登録しているメーリングリストにも、

情報を提供している。

③ パスファインダーのテーマ募集

コンテンツを充実させる方策として、パスファインダーのテーマを募集^{*2}した。作成そのものが大変であるがゆえに、なかなかパスファインダーを作れない、という図書館をサポートし、パスファインダー作成の代行をするためだ。

④ パスファインダー雛形作成マニュアルの整備

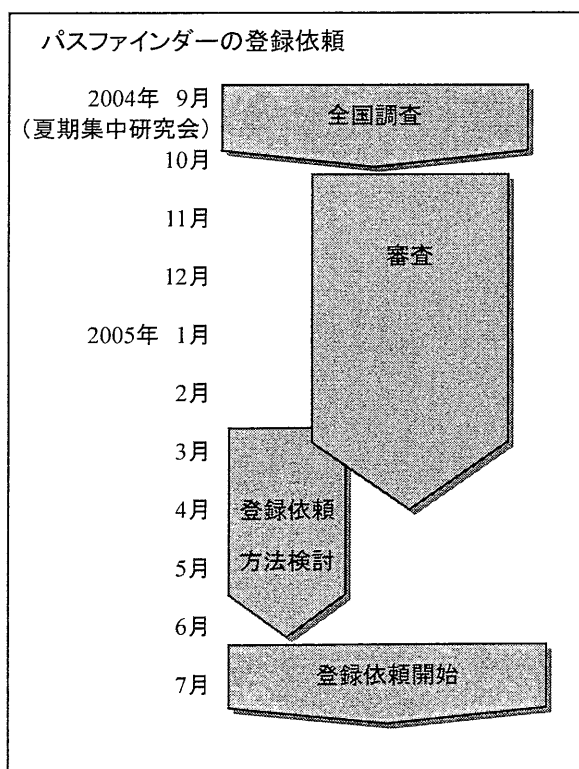
パスファインダーの雛形を作成するための、マニュアルを整備した。

⑤ 各会員によるパスファインダー雛形作成

④のマニュアルを使って、「書評の探し方」、「児童福祉について」といったテーマで会員がパスファインダーの雛形を2点ずつ作成し、順次サイトにアップロードしている。

3) 「パスファインダーバンク」への登録依頼

このようにして「パスファインダーバンク」のサイトは、パスファインダーの貯蓄を増やし、公開・運営しているが、待っているだけではなかなか登録の申し込みがない。そこで、パスファインダーの調査や登録依頼も必要な作業となっている。



2004年9月から、「日本国内の大学図書館関係WWWサーバ(東京工業大学附属図書館)^{*3}」を元にWeb上に公開されているパスファインダーの全国調査を行なった。

発見したパスファインダーは、次の基準に従って会員メンバーで審査を行なう。

- ・ 特定のトピックを扱っている
- ・ ナビゲーション機能がある
- ・ 資料や情報源の一覧性がある
- ・ 簡便に情報にアクセスできる

以上の条件に見合ったパスファインダーが登録依頼候補となっている。

次に、これまで以上に「パスファインダーバンク」へ登録しやすくするために、パスファインダー作成機関に対しての登録依頼の方法について見直しを行なった。

こうして、候補にあがった各パスファインダーの作成機関に、2005年7月から登録依頼を行なった。

4) 「パスファインダーバンク」の状況

登録依頼作業の結果、今期、新たに123件のパスファインダーについてバンクへの登録許諾をいただき、登録パスファインダー数は、148件(2005年12月現在)となった。

登録パスファインダー数

前期 (2002-03年度)	今期 (2004-05年度)	合計
25	123	148

また、アクセスカウンターを設置した2004年12月からの1年の間に8,800回、1ヶ月当たり約730回、1日当たり約24回のアクセスがあり、多くの方が「パスファインダーバンク」を活用していることが、この数値から伺える。

アクセス数

2004年12月18日-2005年12月7日	8,800
1ヶ月あたり	約730
1日あたり	約24

5) 今後の課題

「パスファインダーバンク」をさらに実用的に活用してもらうために、2年に1回の全国調査を実施してパスファインダーの貯蓄を増やすと共に、運用マニュアルを作成し、維持管理していく。また、メーリングリストの活性化、ブログまたは掲示板の新設により、広くパスファインダーに関する情報提供を行ったり、登録いただいたパスファインダーについて推薦コメントの追加を行うなど、共同利用ツールとしての「パスファインダーバンク」の本格的な運用を目指したい。

3 Lib. PR:図書館広報実践支援サイト

1) 「Lib. PR:図書館広報実践支援サイト」立ち上げの経緯

「パスファインダーバンク」は、2000年から構想を開始して6年目を迎え、パスファインダーもある程度定着したと思われる。そこで今期は、新たな研究テーマの模索をしてきた。

「Lib. PR:図書館広報実践支援サイト」*4立ち上げのきっかけとなったのが、毎月の例会で行なった会員8大学の図書館広報事例報告だ。その中では、共通の問題点が見られた。例えば、

- ・ 「図書館オリエンテーション」を開いても学生が集まらない。
- ・ 「レファレンスカウンター」の使い方を知らない学生が多い。
- ・ 「新しいデータベース」を購入しても、使ってもらえない。

などが挙げられる。

それぞれについてメンバーで意見交換をし、他大学の事例から解決法・改善策が提案された。

- ・ オリエンテーション直前に館内放送したと

ころ、かけこみ参加者が増えた。

- ・ カウンターの横に「卒論の資料探し手伝います」と看板を出したところ、レファレンスの利用者が増えた。
- ・ 「×××データベース利用説明会」を「ネットで英字新聞を読もう！」に変えたところ、参加者が倍増した。

このような、広報に関する実践的なヒントやアイデアを、もっと大勢で共有できる仕組みを作ってみてはどうか、という発想から始まったのが、「Lib.PR:図書館広報実践支援サイト」だ。

2) 「Lib. PR:図書館広報実践支援サイト」の企画

広報に関するヒントやアイデアは、すでに「図書館広報実践ハンドブック」*5として2002年に当分科会から出版されていた。その中では、

- ・ オリエンテーション
- ・ 投書箱
- ・ 本の架
- ・ 利用案内
- ・ PR紙
- ・ ポスター
- ・ ビデオ
- ・ サイン計画

などの広報手段を詳しく紹介している。これに次の新たな項目、

- ・ WEB
- ・ 放送
- ・ 展示

を追加して、サイトを構築した。

3) 「Lib. PR:図書館広報実践支援サイト」の内容

①メニューの構成

「Lib.PR:図書館広報実践支援サイト」の画面左側のメニューは大きく2つに分かれている。上半分は「広報手段」、下半分は「万能工具箱」になっている。



- オリエンテーション
- 図書箱
- 本の架
- 利用案内
- PR紙
- ポスター
- ビデオ
- サイン計画
- WEB
- 放送
- 展示
- 図書館広報実践ハンドブック
- パスファインダーバンク
- クリップアート
- 図書館用品集
- 広報グッズ入手方法
- 広報に関する文庫リスト
- 帳票サンプル集
- オリエンテーションキャッチコピー集
- 図書券印刷 図書館
- FAQ
- サイトマップ

Lib.PRへようこそ！

掲示、図書情報、サイン……図書館の広報ツールはたくさんあります。しかし、日々業務の中で忙しすぎて、今のままですら満足してしまいませんか？
少し工夫して活用すれば、利用者に伝わる広報が作成できます。
Lib.PRでは、そのポイントを紹介し、さらに広範囲に活用できる便利なツールを集めたサイトを
提供します。

Current News

本の架 最新の案内(2015/10/28)

利用者が一枚の架をする時、図書館とのコミュニケーションが始まります！

架のイラストは、表紙絵、カットなど、種別・色・広さ・装飾マン
がご希望のデザインから自由に選択いただけます。
また、ご希望のデザインで図書館や学生団体などに、架面には図書館
からのメッセージをワンポイントメニューから図書館利用者と関
することもできます。
架は最小で強力な広報ツールなのです。



4分 40秒のビデオ

- 規格
- B5版1シートに架8枚(6寸切)印
 - 片面カラー印刷
 - 製作指示書付

※架面印刷用テンプレートは、こちらからダウンロードご利用いただけます。

甲込み受付中！くわはここにどうぞご覧ください。

・内容はシンプルに……裏面の内容は、イラストのジャマにならないようにシンプルに、それでもつい読んでしまうような簡単な内容(ワンポイントアドバイス、利用上の注意、サービスの内容など)をセンス良く盛り込みたい。

・使い方を工夫する……架の事情に合わせて工夫する。利用案内やお知らせだけでなく、返却期日を入れてれば返却期限スリップとして使用可能である。

・配布方法を工夫する……配布方法を工夫して、注目度を高めよう。幾種類かある架をすべて一度に「ご自由に持ちください」と置くだけでなく、週替わりか月替わりで貸出1回ごとに手渡し、効果は大きい。逆に、必要以上に持つていかれることは、効果のうちと考えると見る心積りでほしい。

こんなことありませんか？

- ・広報媒体が限られているから図書館からのメッセージをぎゅっと詰め込んでいる。
- ・イラストやデザインはいつも一緒
- ・図書館からの利用案内やお知らせだけを記載している。
- ・配布方法・時期を考えずに自由に配布している。

詳しくは「図書館広報実践ハンドブック」を見て下さい！！

- 本の架表紙(MSWord版) [Sample](#)
- 本の架表紙(MSExcel版) [Sample](#)

Library Media & PR (Tool box)中に、架のPDFがあります。 [Link](#)

しおりを広場 [Link](#)

本屋のさんまは色々な架情報があります [Link](#)

帳票手配(架作成の際の用紙)の便利 [Link](#)

読書推進運動協議会 <「読書週間」のしおり・ポップのデータをダウンロードできます [Link](#)

▲このページのトップへ戻る

② 広報手段

「広報手段」のひとつひとつの説明は、主に「図書館広報実践ハンドブック」の要約だ。さらに、「WEB」、「放送」、「展示」の説明を、新たに追加した。

例えば、「本の架」のページでは「活用のポイント」と陥りやすい失敗例を「こんなことはありませんか？」として紹介している。その下には、すぐに使える帳票サンプルや、役に立つWEBサイトも紹介している。

「展示」のページでは、文章で説明しても伝わりにくいため、メンバー校の事例や画像を盛り込んで紹介している。

③ 万能道具箱

「万能道具箱」は、図書館広報を実践するにあたり、こんなものがあつたらいいなという発想のもとに作成した。ここに「パスファインダーバンク」も含んでいる。

「クリップアート」は、無料のサイトが沢山あるが、図書館向けのイラストはなかなか見つからないという意見をもとに、オリジナルのイラストを作成し、さらに、自分達で使って便利なサイトをリンクで紹介している。

「図書館用語集」は、難しい図書館専門用語を誰にでもわかるように表現し、オリエンテーションの際に学生に使っても通じる表現を集めた。

「帳票サンプル集」は、どの大学でも活用できる帳票を持ち寄り、利用者教育の視点を盛り込んだものを集めた。具体的には、投書用紙、購入希望申込用紙、オリエンテーションのポスターを掲載している。

「オリエンテーションキャッチコピー集」は、オリエンテーションのポスターに添えるキャッチコピーだ。一人でも多くの学生に参加してもらうために、興味をひくキャッチコピーを毎回考える

広報手段：本の架 / 活用のポイント / こんなことありませんか？

本の架とは、本に挟んで読みかけの頁の目印にする小紙片のことで、イラストや図書館からの情報が印刷してあるものことだ。

標準型印刷メディアの中では最小サイズのいわばミニメディアである。提供する情報量は少ないが、架には架の持ち味がある。広報活動の全体的な目的を達成するためには、メディアミックスという考え方が不可欠で、多様なメディアをできるだけ豊富に揃えることが大切だ。

イラストで注目させ、表がよければ裏も見てくれるものだ。ワンポイントメニューから始まって、奥の深い図書館利用法へと導くための最初の手掛りになり、また、華やかなイラストで図書館のファンが揃え、また見れば利用者を図書館へ誘うことも可能という優れものである。

作成・配布の関は、どうしたら持ってってもらえるかを考え、演出しよう。



企画広報研究分科会共同制作

活用のポイント

・デザインは利用者本位に……イラストやデザインは、利用者本位に手に取ってみようという気持でデザインする。図書館員が利用者の行動様式や流行などに常に注意を向ける姿勢が必要だ。

目前で制作するのが不可能であれば、外注や日本図書館協会で譲渡しているものを活用することも選択肢である。

⇒興味のある方は当分科会HP「本の架」のページへ

のは大変だ。そこで、実際に使って効果のあったものや、メンバーが考えたものを集めてみた。

他には、「広報グッズ入手方法」、「広報に関する文献リスト」もメニューにある。「投書事例・回答集」は、作成の要望があったが、まだコンテンツを用意していない。

4) 今後の課題

「Lib.PR: 図書館広報実践支援サイト」は 2005 年 11 月に立ち上げたばかりで、メニューやコンテンツも充実しているとは言えない。今後は、ブログやポッドキャストなど新しい広報手段の追加や、「万能工具箱」の充実が課題と言える。また、図書館広報の研究、「Lib.PR: 図書館広報実践支援サイト」の広報活動も引き続き行なっていく予定だ。

4 「本の葉」共同制作

1) 「本の葉」共同制作までの経緯

当分科会では、図書館のイメージアップ並びに利用者増を図るため、本の葉をはじめポスター、ブックカバーなどの広報ツールの共同制作を 1983 年より行なっていたが、1999 年から現在までやむなく中止していた。

しかし、今期の研究活動中に広報手段の一つとして本の葉をもう一度見直す機会があった。

例えば、街の書店ではレジ前に本の葉が置いてある。アメリカ図書館協会においては、カレントで旬の話題を即、本の葉にし、販売している実績がある。また当分科会参加館においても本の葉を独自で作成し、学生用に配布・設置して多くの学生が持って行くという事例もあった。

それらを踏まえ、本の葉は利用者が手に取りやすい最小で強力な広報媒体であり、本を読む間使用されるので長時間、利用者の目にとまる効果をもたらすと考えた。

当分科会では先にも述べたが、広報ツールの共同制作を行なっていたので、過去のノウハウがあ

った。また、以前は主に郵送による案内だったが、現在ではインターネットという新たな手段が加わり、幅広く迅速に案内が行える。そのような状況の中で、図書館や本をアピールしながら図書館に興味を持たせるために、最も手軽で小さな広報ツールである本の葉の共同制作を再開することにした。

2) 共同制作のメリットとは何か？

単独の図書館で「本の葉」制作の企画の立案、イラストレータの選定や交渉などを行なうことは、かなりの労力と時間、費用がかかる。

しかし共同制作では企画の立案、イラストレータの選定や交渉を当分科会が担当し、本格的な品質の良い葉を制作する。そして大量印刷したものに対して、参加館が印刷費・制作費を出し合うことにより、コストダウンを図るというしくみだ。

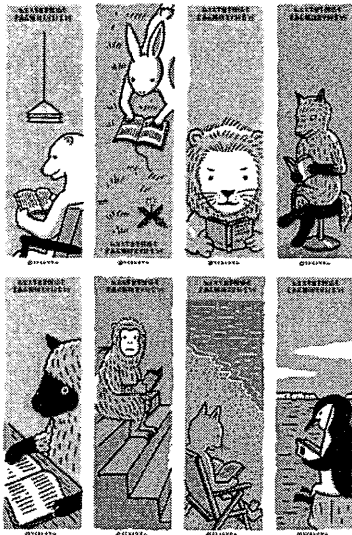
注文枚数が増えれば増えるほど、価格は大幅に下がる。これが共同制作のメリットなのである。

印刷シート数 (セット数)	100シート (1セット、 葉800枚)の価格
1 万シート (100 セット)	2,000 円
2 万シート (200 セット)	1,281 円
3 万シート (300 セット)	952 円

3) 「本の葉」表面

「本の葉」表面のイラストは「月刊ちくま」*6の表紙*7でおなじみのイラストレータ、フジモトマサル氏*8にご協力をいただいた。既成の枠にとらわれず、図書館をアピールでき、大学生の関心をひくキャラクターを 8 カットお願いした。

規格は B5 シートに葉 8 枚印刷されている。使用したアラベール紙という用紙はフジモトマサル氏より指定されたものである。



4) 「本の葉」裏面

裏面には各図書館にて、オリジナルメッセージを印刷することができる。

例えば、図書館の開館時間のお知らせ、貸出冊数と貸出期間など、利用者へお知らせしたい事柄を印刷することができる。

「Lib.PR：図書館広報実践支援サイト」にて、裏面サンプルも提供している。その雛形を使用して印刷ができるので、利用して頂きたい。なお、レーザープリンター、インクジェットプリンター、コピー機で印刷できる。

印刷後、8つにカットをして、各図書館オリジナルの葉の出来上がりである。

5) 「本の葉」頒布方法

頒布方法はお手元にお配りしたレジュメ通りである。最新の注文総数の状況^{*9}などは当分科会ホームページ^{*10}にて公開している。2005年12月20日現在、19館166セットの受付^{*11}をしている。

さらに多くの図書館のご賛同・ご協力を頂きたいので、ぜひご検討願いたい。^{*12}

5 これからの企画広報研究分科会

どこの図書館も予算削減、開館時間延長などで、「時間、人、お金」のすべてにおいて厳しい時代と思われる。しかし、このような時期にこそ、智

恵を出し合って作る、「パスファインダーバンク」や「Lib.PR：図書館広報実践支援サイト」、「広報グッズの共同制作」の必要性を、今日の報告で理解していただけたらどうか。

これからも、企画広報研究分科会では、「パスファインダーバンク」や「Lib.PR：図書館広報実践支援サイト」などの共同利用ツールの企画、制作、運用を通して、図書館広報の研究を行なっていく予定だ。また、サイトの構築や、イラストレータへの仕事の依頼など、日常業務ではなかなか体験できないようなことを、この分科会で、実験的に行っていきたいと考えている。

多くの方々に、当分科会へ参加していただき、一緒に図書館の便利さを利用者に伝えていきたいと願っている。

1 私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会「パスファインダーバンク」
<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/pfb/>

2 今期の応募は、0件。

3 東京工業大学附属図書館「日本国内の大学図書館関係 WWW サーバ」
http://www.libra.titech.ac.jp/libraries_Japan.html

4 私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会「Lib.PR：図書館広報実践支援サイト」
<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/libpr/>

5 私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会編. 図書館広報実践ハンドブック：広報戦略の全面展開を目指して. 東京, 日本図書館協会 (発売), 2002.

6 筑摩書房編. ちくま. 東京, 筑摩書房, 1969-, 月刊.

7 2004年1月-2005年12月

8 フジモトマサル「フジモトマサルの仕事」
<http://www.fujimotomasaru.jp/>

9 2006年1月15日に注文受付を終了した。

10 私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会「私立大学図書館協会東地区部会 企画広報研究分科会」

<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/>

11 最終受付：46館 461セット 1セット：800円

12 発表後、多くの図書館からご注文をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。